

題材名 教材教具名	肢体不自由の生徒の為のプレス機(2013後期型)		
教科・領域	作業学習:陶芸の型抜き作業		
考案者・製作者	山田陽一		
必要な物	 <p style="text-align: center;">初号機 缶潰し中</p>	 <p style="text-align: center;">前期型 教員が上げ下げ切り替え</p>	 <p style="text-align: center;">後期型 自動で上下</p>
保管場所	陶芸室		
内容・使い方	<ol style="list-style-type: none"> <li>① スイッチを押す。</li> <li>② モーターでジャッキが下がる。</li> <li>③ 粘土や空き缶をプレスする。</li> <li>④ 自動でリターンスイッチが作動してジャッキが上がる。</li> <li>⑤ スイッチを押している間は②～④を繰り返す。</li> </ol>		
備考(教材・教具 の工夫点や配慮 点)	<p>2009年に一つの作業を続けるのが苦手な生徒の陶芸作業のバリエーションを増やす目的で初号機を製作。天地を逆にしたパンタグラフ式カージャッキを電動インパクトドライバーで回してプレスした。陶芸の型抜き作業や缶つぶしに使用した。電動ドライバーを握って作動させることができる生徒用。</p> <p>2013年に肢体不自由の生徒2名の陶芸作業用に新型を制作。電動ドライバーは握れないが2人ともプッシュスイッチの操作ができるのでモーター部をジャッキにマウントしてスイッチ操作でON、OFFできるようにした。陶芸の型抜き作業に使っていたが、教師がジャッキの上下運動の切り替えを操作していた。</p> <p>自動で上下できるというアドバイスからリターンスイッチが作動するように改造。2013年の後期から使用している。大きな音で上がったり下がったり動いているのが楽しいのかスイッチを押す時間が長くなった。</p> <p>不要なジャッキと壊れた電動ドライバーで製作。時々リターンスイッチが誤動作するのが弱点。</p>		